

アルゼンチンアリ

目科名：ハチ目アリ科
学名：*Linepithema humile*
原産地域：南アメリカ

【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来アリの駆逐・生物多様性の低下

- ・在来アリの巣を襲って生息数を減少させる
- ・種子散布や花粉媒介に貢献する在来アリ等の昆虫類にも影響を与えるため、在来植物にも影響を及ぼすおそれ

産 業：農作物への被害

- ・柑橘類、サトウキビ、トウモロコシ等の芽、花、実を破壊、種子を食べる
- ・農作物の害虫であるアブラムシを増やす

生 活：家屋への侵入

- ・住宅に入りこみ、食品にたかる
- ・就寝中、布団の中にまで入って体中を這ったり咬んだりして安眠を妨害（毒性はない）



- ・体色は、淡黒褐色
- ・体形は細長く、触角が長い

<体長>

女王アリ 4.5 ~ 5mm

働きアリ 2.5 ~ 4mm

【生息場所・行動・食べ物】

- ・働きアリの活動温度帯は 5~35℃で冬でも休眠しない
- ・1つの巣に1000頭を超す女王アリが存在（多女王制）することがあり、繁殖力が驚異的
- ・地表付近の様々な隙間に営巣し、荷物や鉢植え等にも営巣する
- ・建物の中まで行列が入る
- ・柑橘類やイチジク等の果物、サトウキビ、トウモロコシ、ワタ等の種子を食べる

行列をつくり、高速（速いと4~5cm/秒、1秒間に体長の10倍以上の距離）で移動する様子は、在来アリには見られない

【どこまで広がっているか】

長野県では

- ・2019年12月現在、県内での分布なし

全国では

- ・1993年に広島県廿日市市での確認が最初
- ・2018年までに東京、神奈川、静岡、愛知、岐阜、京都、大阪、徳島、兵庫、岡山、広島、山口で定着を確認



- ・一見、黒っぽく見えるが、よく見ると褐色
- ・やや透明感のある体色

【間違わないで！】

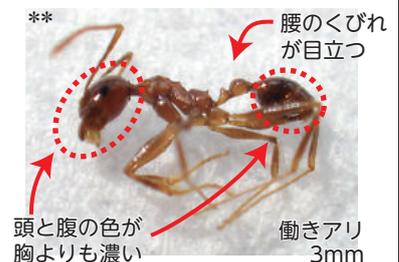
ルリアリ（在来種）



トビイロケアリ（在来種）



オオズアリ（在来種）



【発見したときは】

- 同じようなアリが発見現場の周りにいないか観察し、可能な範囲で集団の状況を把握する
- お住まいの市町村または県地域振興局環境課に連絡する

【生活史】

※生活史は、長野県以外の地域の事例のため、時期がずれる可能性あり



【防除方法】

通報 早期発見が最も重要！

- 見慣れないアリがいたら、市町村または県に連絡をする
※生きたまま別の場所に移動させないこと

侵入予防 拡大を防ぐ

- アルゼンチンアリの集まりやすい環境をなくす
 - ・地面にじかに物を置かず立て掛けるか、台の上に置く
 - ・食べ物を長時間放置しない

殺虫剤で個体の駆除 拡大を防ぐ

- 疑わしいアリを発見したら、まずは殺虫剤（スプレーか液剤）もしくは熱湯を個体に直接散布
- 駆除した個体は捨てずに、市町村または県地域振興局環境課に連絡（種が特定できていなくてOK）

巢の駆除 根絶を目指す

- ◎主に市町村や地域振興局が担当します
 - ◎アルゼンチンアリの巢の駆除を検討される場合は お住まいの市町村または県地域振興局環境課にご相談ください
 - ベイト剤の設置は、巢の範囲の把握状況によって方法が異なる ※ベイト剤とは、餌として巢に持ち込まれるタイプの殺虫剤のこと
 - ・ 巢の範囲が分かっている場合
巢の範囲を囲むように、液剤を散布し、ベイト剤を設置する
 - ・ 巢の範囲が不明の場合
トラップによるモニタリング等によって巢の範囲をできるだけ特定し、ベイト剤を設置する（巢の範囲を特定する前に液剤散布をしてしまうと、女王アリが逃げ出してしむことがある）
 - 実施時期は、活動が活発な時期
 - ベイト剤及び液剤は、市販のアリ用の遅効性の薬剤を使用
- ※間違っても在来アリの駆除すると、かえってアルゼンチンアリが定着しやすくなる可能性があります

地上で見られる個体は、地域に生息している集団のごく一部。そのため、これらの個体を殺虫するだけでなく、巣にいる多くの個体を効率的に駆除する必要があります。

ここをチェック！

- 地面にじかに置かれたブルーシート、ベニヤ板、カーペット等
- 地面にじかに置かれた植木鉢、プランター、ブロック等
- 壁のひび割れ、地面と壁の境にある穴等（あらゆる隙間！）
- テーブルの上等に長時間放置した、食べ物や飲み物



壁のひび割れ



地面に置かれたブロック